

授業科目 職業関連作業療法学演習

【担当教員名】 岡村 太郎	対象学年 3	対象学科 作業
	開講時期 後期	必修・選択 必修
	単位数 1	時間数 30

<一般目標：G I O>

職業関連作業療法学で学習した内容を確実なものとするため、職業前評価の具体的な方法について演習する。学生が実際の評価方法や作業を施行し、その作業分析から障害と職業について理解を促したい。また、現在、職業場面で働いている作業療法士から講義を受け、社会の中の障害者の現状を把握し作業療法の役割や具体的な方法について学ぶ

<行動目標：S B O>

1. 職業関連活動に関する評価に必要な情報と収集方法が述べられる
2. ICFを使用し就労支援への応用を検討できる
3. 標準化されている検査をしようすることができる
4. フォールドワークを通じて職務分析を行う
5. 職業関連作業療法について実際（症例）を通じて学ぶ

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	職業に関連する評価について学ぶ	1	担当：岡村
2	職業興味検査の実施とその解釈について検討する（紙筆検査）	3	担当：岡村
3	職業レディネスチェックリストの実施とその解釈について検討する（紙筆検査）	3	担当：岡村
4	労働省遍一般職業適性検査の実施とその解釈について検討する（紙筆検査）	3	担当：岡村
5	労働省遍一般職業適性検査の実施とその解釈について検討する（器具検査）	3	担当：岡村
6	作業療法課題観察法・内田クレベリン検査・アレンの認知レベル検査等を学ぶ	3.4	担当：岡村
7	職務分析について手順・方法を学ぶ	4	担当：岡村
8	グループでフィールドワークを通じて職務分析を行う	4	担当：岡村
9	グループで職務分析の発表を行う	2	担当：岡村
10	健常者の例を検討し、ICFを使用し就労支援へ可能性を検討	2	担当：岡村
11	症例検討を通じてICFを使用し就労支援への応用を検討し発表する	2	担当：岡村
12	職業関連作業療法について実際（症例）を通じて学ぶ	5	担当：菅原
13	職業関連作業療法について実際（症例）を通じて学ぶ	5	担当：菅原
14	職業関連作業療法について実際（症例）を通じて学ぶ	5	担当：菅原

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	職業関連活動	早川宏子	協同医書出版	1999
	国際生活機能分類		中央法規	2002
参考書	職業リハビリテーション入門	菊池恵美子	協同医書出版	2001
その他の資料	職業興味検査、職業レディネスチェックリスト、労働省遍一般職業適性検査等			

【評価方法】 レポートと発表、出席	【履修上の留意点】 グループ活動など多くなるので欠席の場合、課題提出あり。未提出の場合1回の欠席につき10点減点となるので注意してください。
----------------------	---